株式会社あらた

2027年3月期 第2四半期
決算説明資料

2026年11月10日

| 証券コード：2733 |

株式会社あらた

2027年3月期計画に対して2Qの進捗は計画通り推移
引き続き中計2030戦略を推進し、利益体質の強化を図る

売上高　12期連続過去最高更新

利益　売上総利益率よりも販管費率の伸びが大きく、各段階利益において前年を下回る

売上高

5,216億円

前年同期比　103.6%

・msh・Politeの新規連結による増加
・インストアシェアの拡大
・専売・優先流通品の好調

営業利益

57億円

前年同期比　78.1%

・売上総利益率の低下
→センターフィー・リベートの増加
　値上げ商品の価格転嫁に遅れ
・販管費の増加

経常利益

56億円

前年同期比　74.7%

・金利上昇による支払利息の増加

親会社株主に帰属する当期純利益

37億円

前年同期比　73.7%

EBITDA

85億円

前年同期比　87.1%

・減価償却費 約23.7億円
・のれん勘定 約　3.7億円

2027年3月期 第2四半期　業績

株式会社あらた

（百万円）	2026年3月期2Q 実績	2027年3月期2Q 実績	前年同期比	
			差額	率（%）
売上高	503,299	**521,652**	+18,353	103.6
売上総利益	49,412 (9.8)	**50,746** **(9.7)**	+1,333 (▲0.1p)	102.7
販売管理費	42,029 (8.4)	**44,978** **(8.6)**	+2,949 (+0.2p)	107.0
営業利益	7,383 (1.5)	**5,767** **(1.1)**	▲1,615 (▲0.4p)	78.1
経常利益	7,549 (1.5)	**5,641** **(1.1)**	▲1,907 (▲0.4p)	74.7
親会社株主に帰属する当期純利益	5,043 (1.0)	**3,715** **(0.7)**	▲1,327 (▲0.3p)	73.7
EBITDA	9,786 (1.9)	**8,520** **(1.6)**	▲1,265 (▲0.3p)	87.1

＊（　）内は対売上比(%)

2027年3月期 第2四半期　業績（会計期間）

株式会社あらた

（百万円）	1Q			2Q		
	2026年3月期	2027年3月期	前年同期比（%）	2026年3月期	2027年3月期	前年同期比（%）
売上高	251,192	**263,755**	105.0	252,106	**257,897**	102.3
売上総利益	24,909 (9.9)	**25,681** **(9.7)**	103.1	24,503 (9.7)	**25,064** **(9.7)**	102.3
販売管理費	20,843 (8.3)	**22,586** **(8.6)**	108.4	21,186 (8.6)	**22,392** **(8.7)**	105.7
営業利益	4,065 (1.6)	**3,095** **(1.2)**	76.1	3,317 (1.2)	**2,672** **(1.0)**	80.6
経常利益	4,152 (1.7)	**3,152** **(1.2)**	75.9	3,396 (1.2)	**2,489** **(1.0)**	73.3
親会社株主に帰属する当期純利益	2,792 (1.1)	**2,039** **(0.8)**	73.0	2,250 (0.8)	**1,676** **(0.6)**	74.5
EBITDA	5,241 (2.1)	**4,438** **(1.7)**	84.7	4,544 (1.8)	**4,082** **(1.6)**	89.8

＊（　）内は対売上比(%)

株式会社あらた

2Q計画達成・通期計画に対する進捗50%を達成
計画通り推移

（百万円）	2027年3月期 2Q実績	2027年3月期 2Q計画	計画比（%）	2027年3月期 通期計画	進捗率（%）
売上高	521,652	518,000	100.7	1,030,000	50.6
営業利益	5,767 (1.1)	5,680 (1.1)	101.5	11,000 (1.1)	52.4
経常利益	5,641 (1.1)	5,530 (1.1)	102.0	10,500 (1.0)	53.7
親会社株主に帰属する当期純利益	3,715 (0.7)	3,530 (0.7)	105.3	7,000 (0.7)	53.1

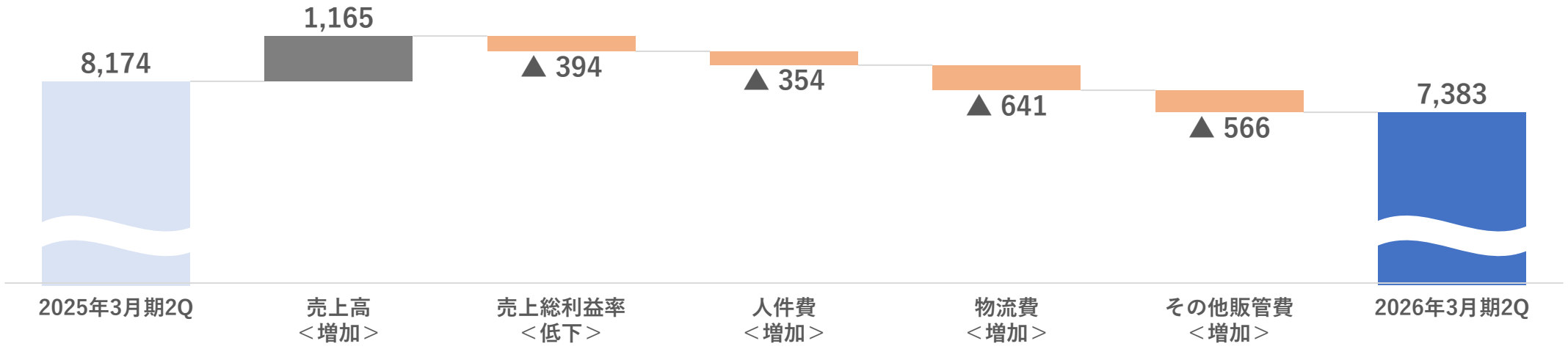
＊（　）内は対売上比(%)
＊計画値は2026年5月14日発表数値

2027年3月期 第2四半期　営業利益の増減要因

株式会社あらた

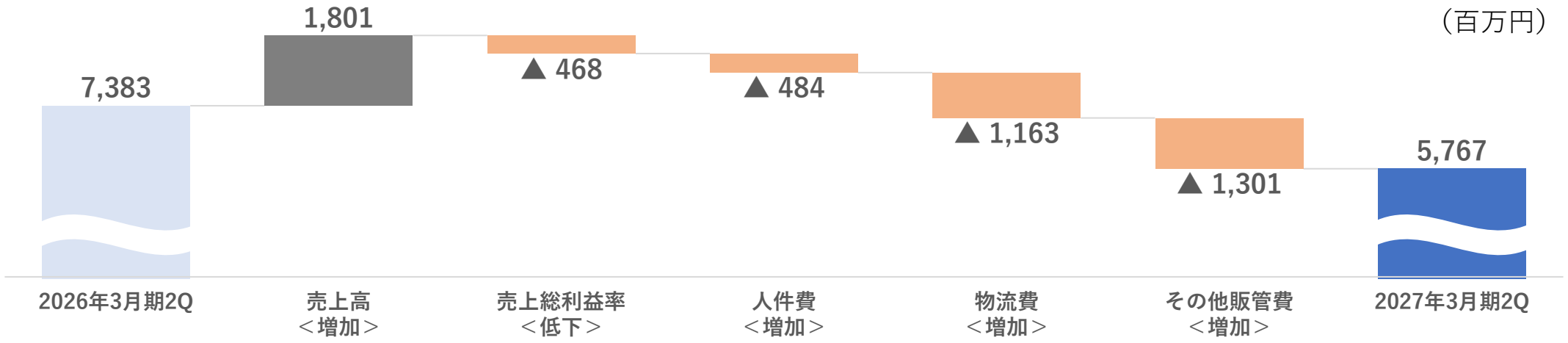
2026年3月期2Q

（百万円）

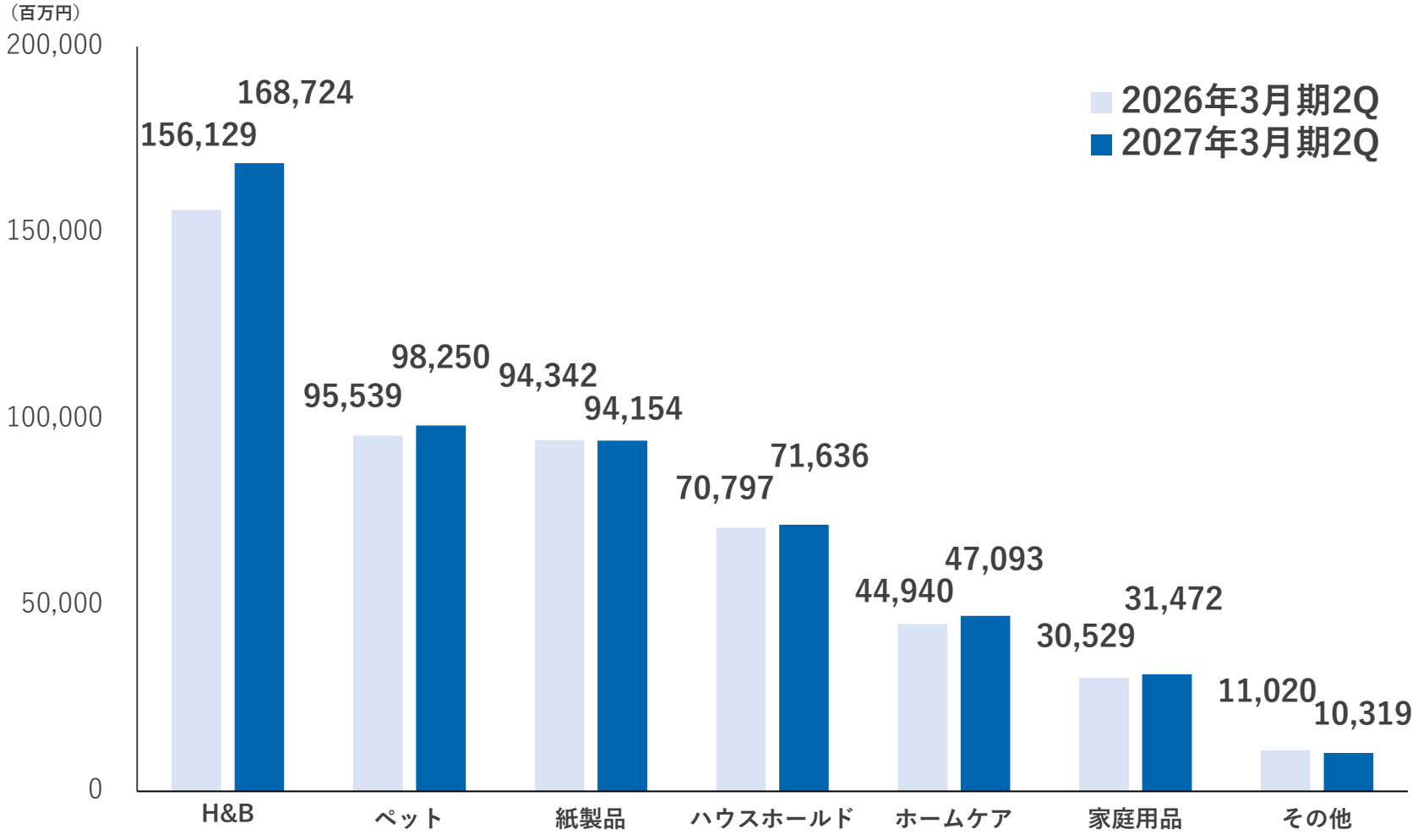


2027年3月期2Q

（百万円）



カテゴリー別売上高　（前年比較）



前年同期比	108.1%	102.8%	99.8%	101.2%	104.8%	103.1%	93.6%

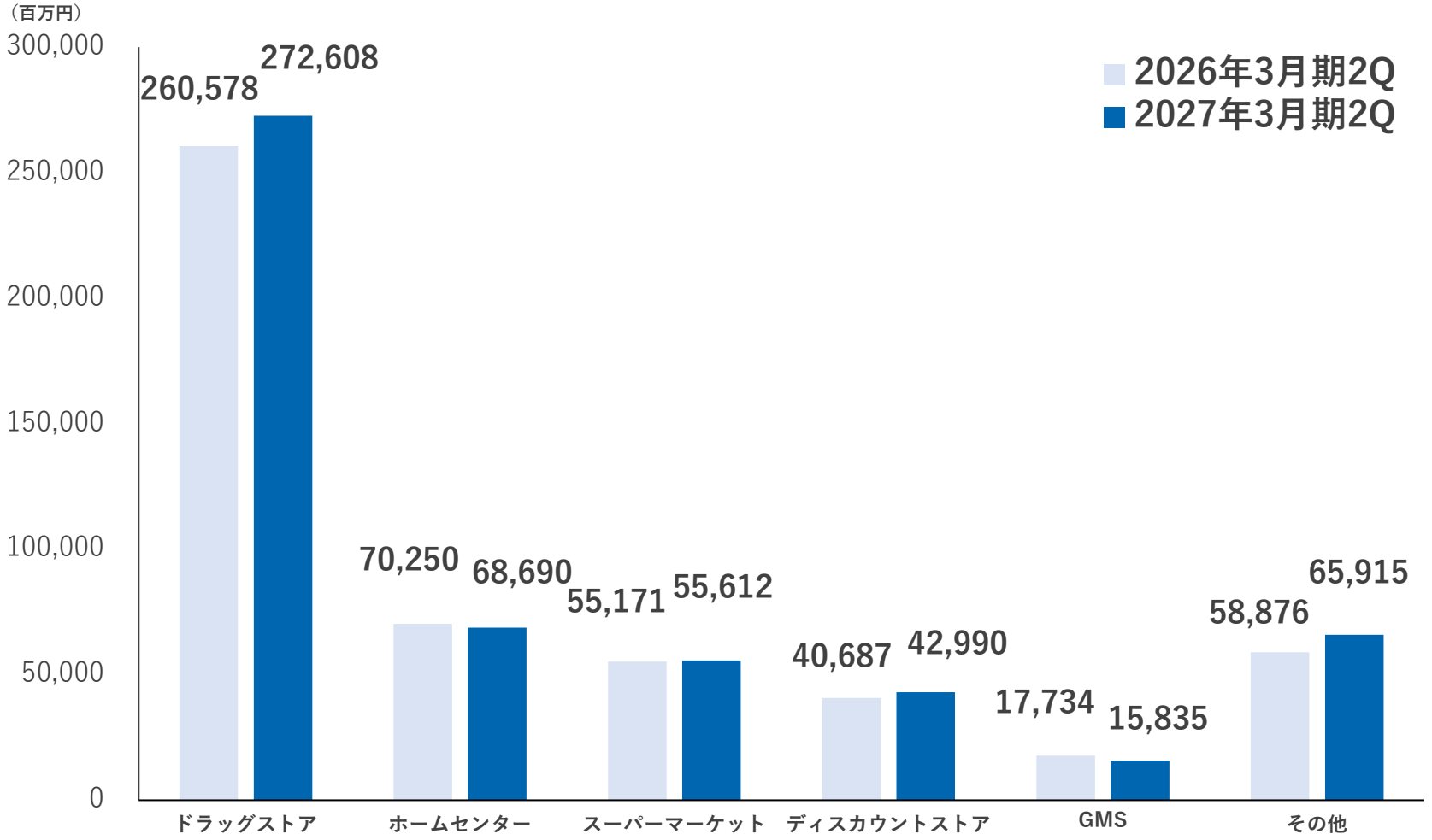
H&B

・インストアシェアの拡大
・専売・優先流通品が好調
・msh・Politeの新規連結による効果

ホームケア

・インストアシェアの拡大
・芳香・消臭剤の高付加価値商材へのシフト
・モバイルアクセサリーの導入拡大
・自然災害の影響により災害関連用品の売上増加

業態別売上高　（前年比較）



	ドラッグストア	ホームセンター	スーパーマーケット	ディスカウントストア	GMS	その他
前年同期比	104.6%	97.8%	100.8%	105.7%	89.3%	112.0%

ドラッグストア

・インバウンド需要による増加
・インストアシェアの拡大

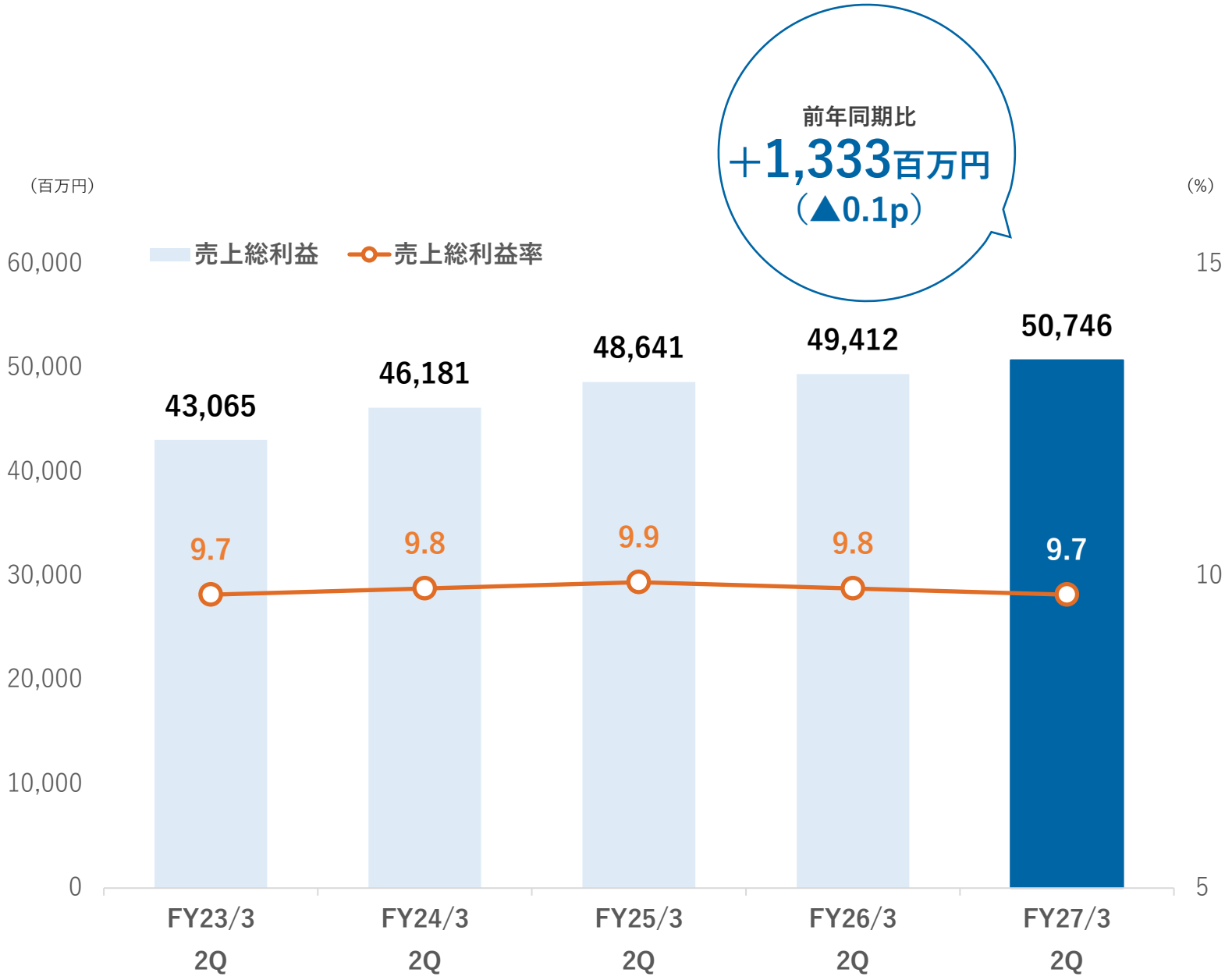
ディスカウントストア

・インバウンド需要による増加
・インストアシェアの拡大
・価格感度の高まりによる消費行動の変化

その他

・msh・Politeの新規連結によるバラエティ業態の拡大
・コンビニ業態におけるインストアシェアの拡大

2027年3月期 第2四半期　売上総利益



Point

センターフィーの増加等が大きく影響して売上総利益率は低下

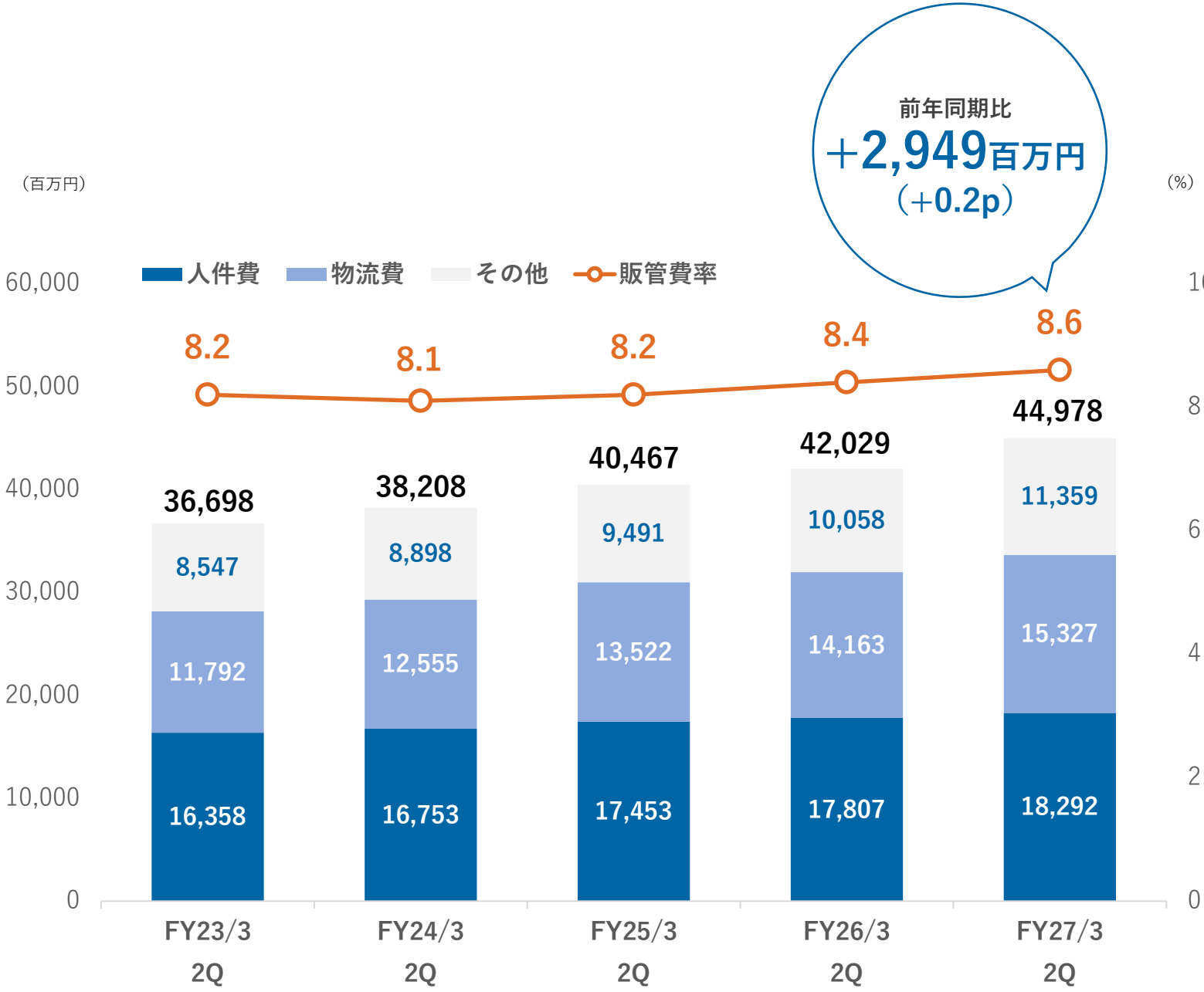
内部要因

〈増加要因〉
- 売上増加に伴う売上総利益額の増加
- 収益性の高い化粧品の拡大
- 専売・優先流通品の売上高構成比の拡大
- 売上総利益率の高いmsh・Politeの新規連結

外部要因

〈減少要因〉
- インフレ下におけるセンターフィーの増加等
- 流通業界の環境変化による売上総利益率の低下

2027年3月期 第2四半期　販管費



Point

M&Aによる影響およびインフレによる各種費用の増加

内部要因

〈増加要因〉
- M&Aによるのれん等の発生
- msh・Politeの新規連結
- 物流業務委託料および運賃保管料の増加

〈減少要因〉
- 人件費伸長率を売上伸長率よりも抑制

外部要因

〈増加要因〉
- 最低賃金の上昇によるパート人件費の増加

2027年3月期 第2四半期　連結貸借対照表

株式会社あらた

2026年3月期末（百万円）

流動資産	流動負債
256,312 73.1%	178,533 50.9%
	固定負債 47,855 13.7%
固定資産 94,238 26.9%	純資産 124,162 35.4%

総資産　：　350,551

2027年3月期 2Q（百万円）

流動資産	流動負債
261,819 72.9%	186,970 52.0%
	固定負債 46,576 13.0%
固定資産 97,258 27.1%	純資産 125,529 35.0%

総資産　：　359,077

主な要因

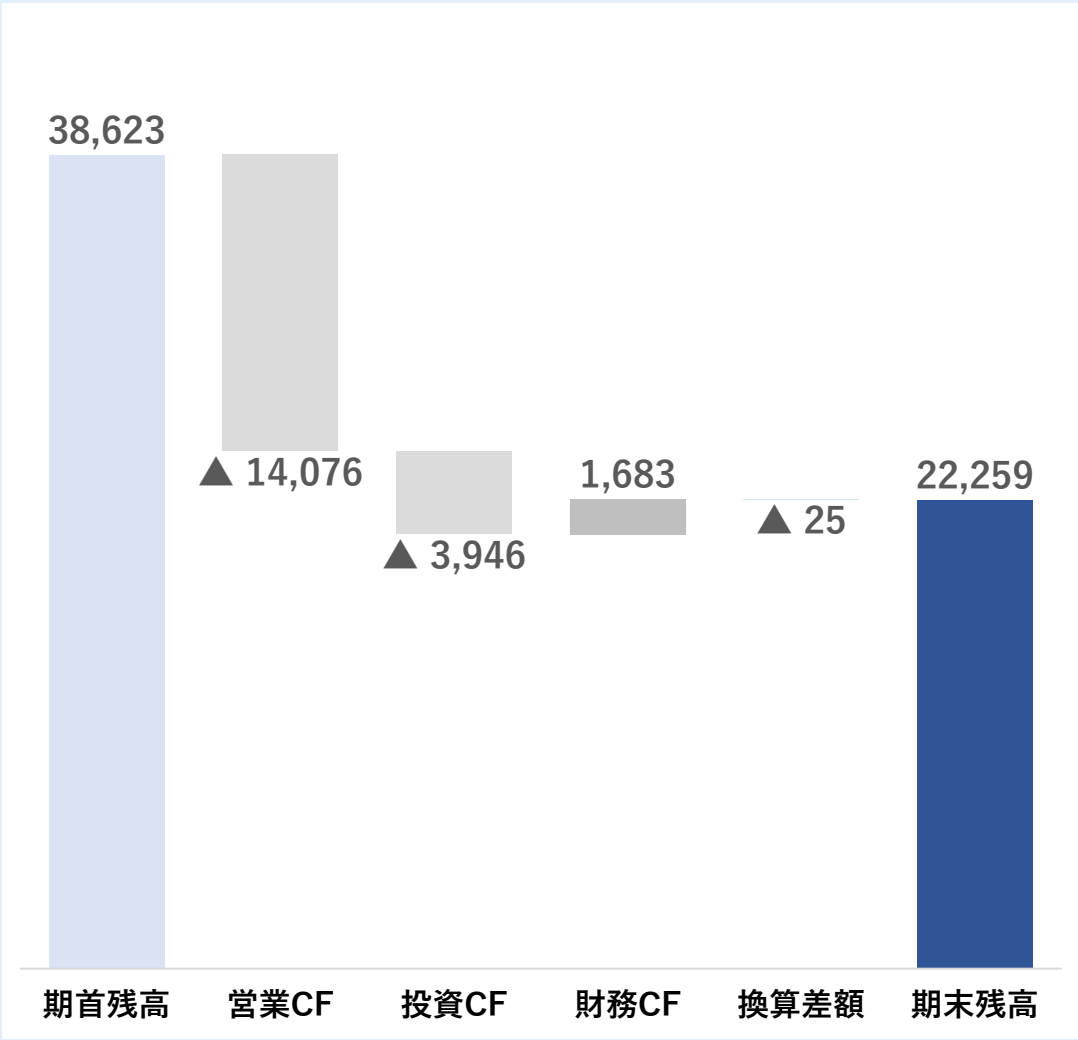
- 流動資産　＋5,506百万円
  - （＋）受取手形・売掛金　17,737百万円
  - 商品　4,125百万円
  - （－）現金預金　16,128百万円
- 固定資産　＋3,019百万円
  - （＋）建物・構築物　1,265百万円
  - その他有形固定資産　1,278百万円
- 流動負債　＋8,437百万円
  - （＋）短期借入金　4,964百万円
  - その他流動負債　2,675百万円
- 固定負債　▲1,278百万円
  - （＋）社債　2,800百万円
  - （－）長期借入金　3,677百万円
- 純資産　＋1,366百万円

＊2027年3月期第1四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2026年3月期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

2027年3月期 第2四半期　キャッシュフローの状況

（百万円）

	FY26/3期 2Q実績	FY27/3期 2Q実績	増減
期首残高	22,497	38,623	+16,126
営業CF	1,308	▲14,076	▲15,384
投資CF	▲4,233	▲3,946	+287
財務CF	6,567	1,683	▲4,884
換算差額	5	▲25	▲30
期末残高	26,144	22,259	▲3,885
増減額	+3,647	▲16,363	▲20,010



通期予算の達成に向けた下期施策

売上総利益率の改善

・収益性の高い専売・優先流通品のカテゴリー領域拡大による売上増
・外部環境を踏まえた取引価格や取引条件の適正化を図る

販管費率の改善

・企業軸で物流効率改善の提案による物流費の抑制
・DXの推進で人員配置の適正化を図り、前中計のIT中計効果を人件費抑制につなげる

その他の改善

・在庫効率の向上により在庫回転日数の改善を図る

資本政策・株主還元

配当方針

配当性向30%を意識しながら
安定配当・増配を図る

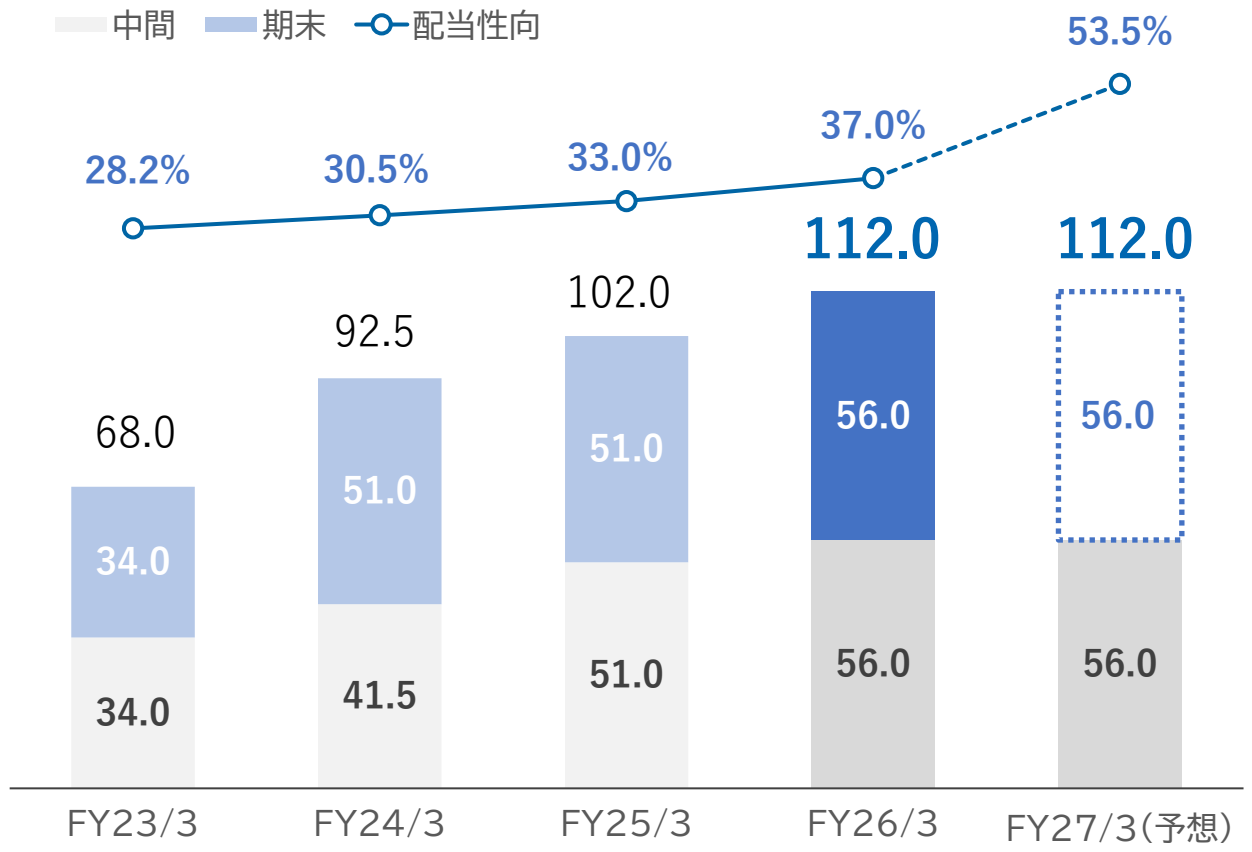
2026年3月期

中間56円、期末56円の112円
（前期比＋10円）

2027年3月期

中間56円（実施）、
期末56円の112円を予想
（配当性向：53.5%）

1株あたり連結配当金推移 （円）



＊2024年1月1日付で当社普通株式を2:1に分割しております。
それ以前の数値は分割後の金額に換算しております。

中期経営計画2030　全体像

株式会社あらた

体質強化戦略と成長戦略で目標達成へ

中計2026 実績

売上高	1兆47億円
経常利益	135億円
EBITDA	180億円
ROE	8.4%

中期経営計画2030

強さを磨き ✕ 未来を拓く

体質強化戦略　BOTTOM LINE

収益体質の強化による
ボトムラインの底上げ

経常利益 ＋25億円

成長戦略　TOP LINE

独自性の強化による
トップラインの継続的拡大

売上高 ＋1,550億円

財務戦略

- 株主還元
（配当性向30%を意識しながら
安定配当・増配を図る）
- キャッシュアロケーション
（ROICを投資規律として意識）

サステナビリティ戦略

環境 / 人材 / 地域社会 / ガバナンス / サプライチェーン

中計2030 目標

売上高	1兆1,600億円
経常利益	160億円
EBITDA	240億円
ROE	8%以上

株式会社あらた

中期経営計画2030

強さを磨き × 未来を拓く

体質強化戦略

収益体質の強化によるボトムラインの底上げ

体質強化戦略

経常利益
＋25億円

売上総利益率改善施策

今期の取り組み

専売・優先流通品の拡大
・カテゴリー領域を拡大開始

来期以降の施策

商品を軸とした戦略の推進
・ID-POSを活用した分析力強化による専売・優先流通品の開発・育成
・粗利向上のためのカテゴリー戦略

売上総利益率
＋0.5p

販管費率抑制施策

今期の取り組み

販管費率抑制に向けた体質改善
・生産性向上に向けたIT・DX推進
・人員配置の適正化による人件費の抑制
・物流生産性改善に向けたケースGTP導入
・企業軸で物流効率改善を提案

来期以降の施策

販管費率抑制の実効性強化
・デジタル人材育成によるIT・DX施策の推進
・IT・DXの生産性向上と人員計画との連動による経費削減

社員一人当たり売上高
約20%UP

グループ会社の収益性改善

今期の取り組み

グループ間の効率化推進
・グループ間の共同配送を実施
・業務・物流機能の連携・集約を検討
・中国事業撤退により海外事業を再編（注力事業へリソースを集中）

来期以降の施策

グループリソースの連携による効率化の加速
・グループ事業再編による利益改善
・海外事業のグループ連動
・グループ各社の強みを活かした収益性改善

グループシナジーの創出

株式会社あらた

中期経営計画2030

強さを磨き × 未来を拓く

成長戦略

独自性の強化によるトップラインの継続的拡大

成長戦略

売上高
＋1,550億円

独自性の強化による インストアシェアの拡大

今期の取り組み

リテールサポート機能の構築

・㈱True DataのID-POSと当社の商品情報を連動した独自のデータ分析を確立
・商品軸での分析力強化
・あらた展示会により独自性をPR

来期以降の施策

リテールサポート機能の展開

・得意先軸での分析強化・提案
・リテールメディアと連動した独自提案
・メーカー様との商品企画・提案

次世代営業モデルの確立により
1,550億円の売上拡大をサポート

新たな成長ドライバーの確立

今期の取り組み

あらたの総合力を活かした展開

・あらたの販売力を活かしたmshブランドの売上拡大
・グループ各社の専門性強化に向けたチャネル整理

来期以降の施策

グループシナジーで新たな価値を創出

・グループ各社の専門性強化に向けた体制の構築
・あらたの分析力を活かした商品開発

グループ各社の強みを活かし
化粧品カテゴリー売上高
200億円UP＋α（M&Aシナジー）

売上拡大を支える機能強化

今期の取り組み

売上拡大を見据えた新センター開発

・関西新センター
10月28日に竣工式を実施
投資額　約100億円
稼働時期　2028年春
現在の1/3の人員で1.5倍の出荷量を実現

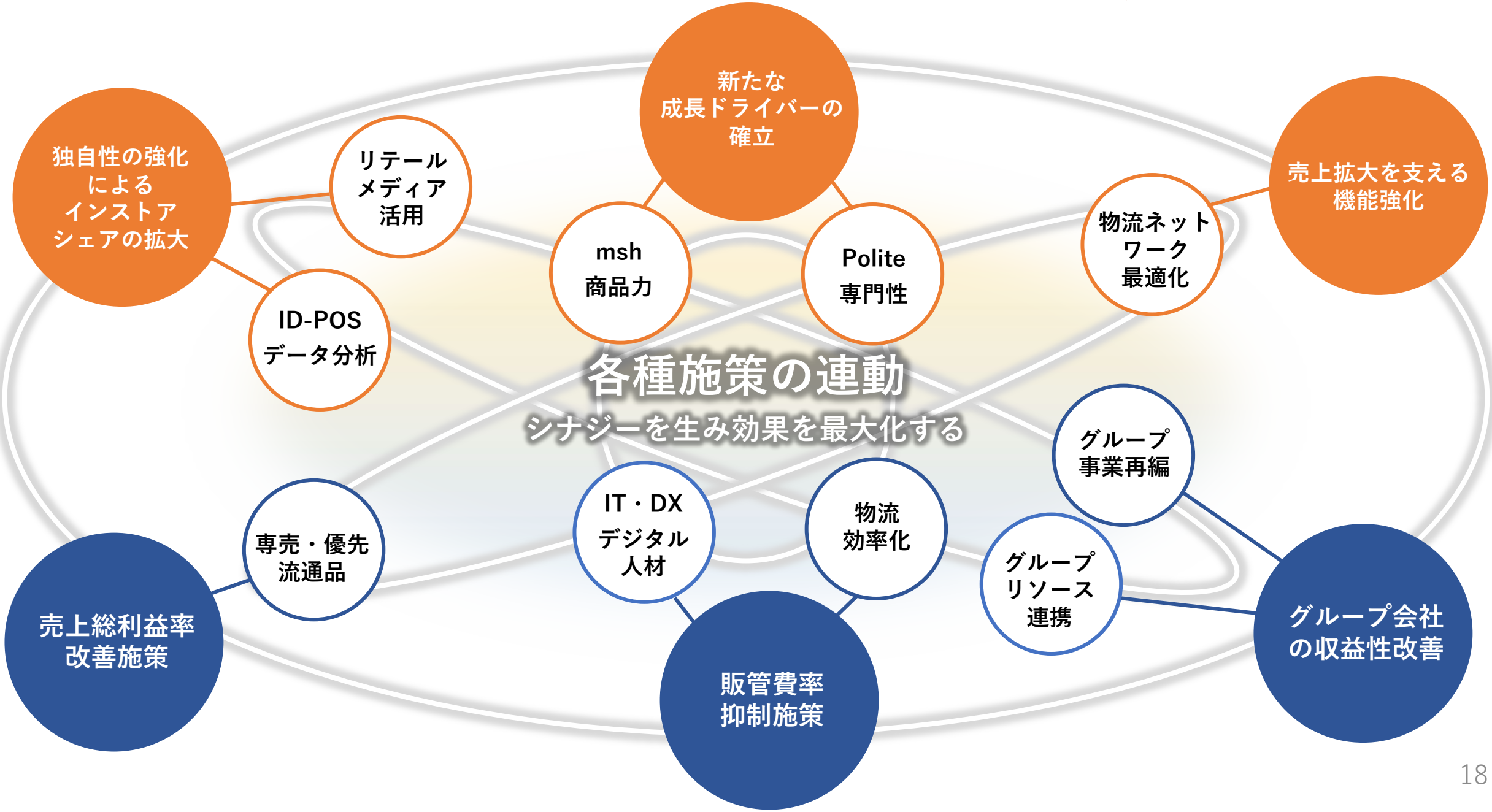
来期以降の施策

全国物流ネットワークの最適化

・首都圏新センター稼働に向けて土地取得予定
・AIを活用した自動化マテハンの展開

関西エリア　物流キャパ
20% UP

中期経営計画2030　進捗



株式会社あらた

中期経営計画2030

強さを磨き✕未来を拓く

サステナビリティ戦略　サステナビリティ強化を企業価値向上につなげる

サイバーセキュリティ・IT-BCPの強化

セキュリティの高度化と
有事の際の早期復旧に向けた体制を整備

- リアルタイム監視による高度な防御体制
- バックアップシステムを構築
- 有事の際の災害対策本部を設置

巧妙化するサイバー脅威からデータを守るため
セキュリティ対策の高度化を推進

他社との共同配送

非競争領域での協働を推進

- 同業他社との共同配送
  エリアの拡大
- 他業種を含めた共同配送
  の実現



持続可能な価値提供に向けて
業界全体でサプライチェーン効率化

あらたコーポレートサイト（英語版）をリニューアル

2026年6月に一部項目を先行公開、8月に日本語版、11月に英語版の刷新が完了し、完全リニューアルいたしました。
海外の株主・投資家の皆さまやグローバルなビジネスパートナーをはじめとするステークホルダーに対し、当社の事業活動や目標達成に向けたプロセスを、タイムリーかつ透明性高く発信してまいります。



Point

1.　ビジネスモデルページを最適化
当社の事業規模や日本社会における役割、卸商社ならではの独自のビジネスモデルを直感的にご理解いただけるようコンテンツを最適化いたしました。

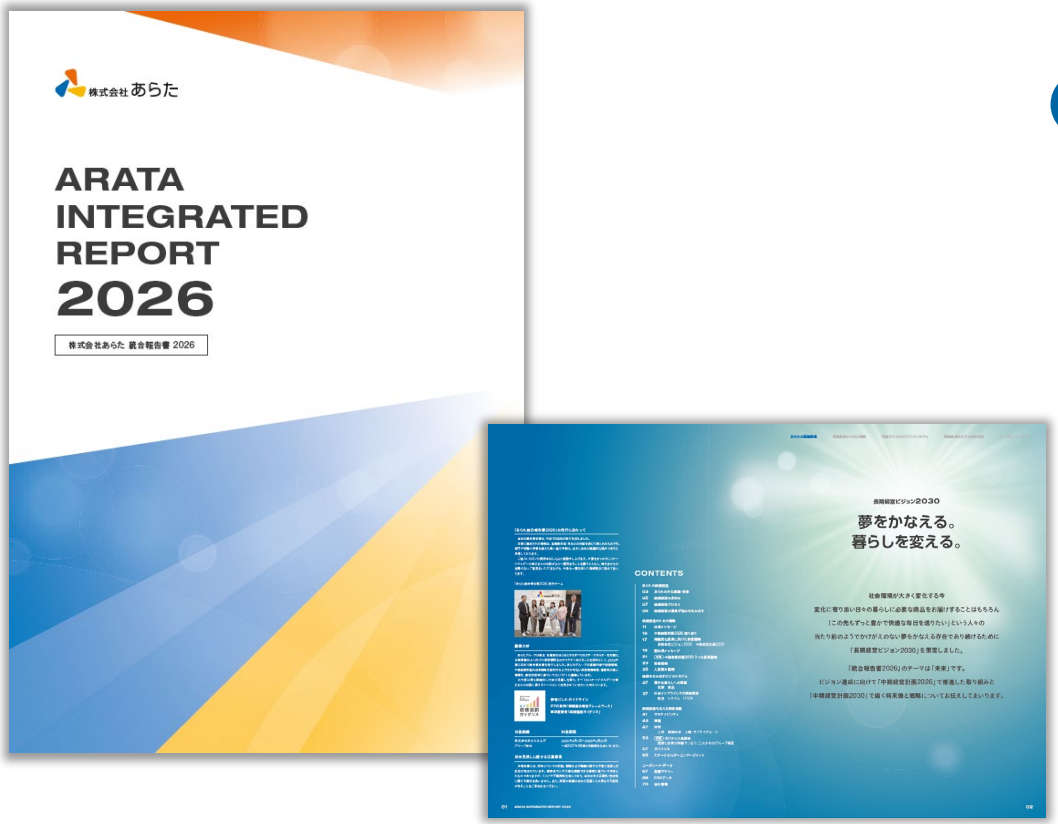
2.　IRページを新設
トップページにIRニュースを設置し、海外のステークホルダーへも迅速かつ充実した情報発信に努めます。

3.　コーポレートカラー「青」を基調とした、誠実さを表すデザイン
ステークホルダーが求める最新動向へシームレスにアクセスできるサイト構造へと刷新いたしました。

詳細は11月10日開示のプレスリリースへ

統合報告書2026を発刊

2026年9月末に統合報告書2026を発刊いたしました。
企業価値向上に向けた経営戦略やサステナビリティの取り組みをわかりやすくお伝えすることを目的に2018年より発刊しており、今回で9回目となります。
ステークホルダーとの対話ツールとして継続的に深化しております。



Point

1.　統合報告書2026テーマ「未来」
長期経営ビジョン 2030 の達成に向け、「中期経営計画 2026」で推進した取り組みの振り返りと、2026 年 4 月より始動した新たな「中期経営計画 2030」で描く将来像や成長戦略について詳しくお伝えしております。

2.　「未来」をイメージしたデザイン
次の成長フェーズへ向かう当社のビジョンをより感じていただけるよう、「未来」をイメージしたデザインを採用しています。

3.　成長戦略を伝えるコンテンツの充実化
当社の成長を支える社員および経営幹部によるコメント・対談・座談会を掲載するなど、コンテンツのさらなる充実を図りました。

詳細は9月15日開示のプレスリリースへ

予測に関する注意事項

- 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。

- ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。

IRに関するお問合せアドレス

ir-info@arata-gr.jp

決算に関するご質問やIR面談のご依頼お待ちしております

Copyright ARATA Corp. All Rights Reserved



Copyright ARATA Corp. All Rights Reserved